

第3回田中・柏の葉コミュニティエリア検討会議議事録

1 日時

平成30年9月22日（土） 10時00分から12時00分

2 開催場所

東葛テクノプラザ第1研修室

3 出席者

(1) 委員

竹之内明委員（田中地域ふるさと協議会）、根本利治委員（柏市ふるさと協議会連合会）、増田明委員（柏市若柴町会）、伊藤孝委員（新若柴町会）、増田勝美委員（東十余二町会）、金井哲治委員（柏の葉一丁目自治会）、米山諭委員（柏の葉二丁目町会）、石毛伸委員（柏の葉三丁目町会）、篠原景子委員（柏の葉キャンパス一番街町会）、山境秀文委員（柏の葉キャンパス二番街町会）、武田紘輔委員（柏の葉キャンパスゲートタワー管理組合）、秋山享克委員（柏市社会福祉協議会）、三牧浩也委員（柏の葉アーバンデザインセンター）、大野正英委員（麗澤大学経済学部）、飯田晃一企画部長、篠原忠良市民生活部長、宮島浩二保健福祉部長、南條洋介都市部長、高橋直資地域づくり推進部長

(2) 事務局

ア 田中近隣センター

西内所長

イ 地域支援課

沖本課長、染谷主幹、老川主査、本間主事、土屋主事及び照沼主事補

4 配布資料

(1) 次第

(2) 説明事項 1 第2回検討会議のふりかえり

(3) 説明事項 2 支えあい活動の事例について

(4) 説明事項 2-1 人口動向について

(5) 協議事項 1 エリア分割の境界について

(6) 協議事項 2 分割後の進め方と課題

(7) 田中・柏の葉コミュニティエリア検討会議出席者名簿

5 議事概要

(1) 開会

(2) 議事

ア 説明事項 1 第2回検討会議のふりかえり（染谷主幹）

イ 説明事項 2 支えあい活動の事例について（宮島保健福祉部長）

【質疑応答・意見】

（米山委員）

表の中に活動概要というものがあって、入会金が500円だとかゴミ出し1回50円となっているがこのあたりの説明をしていただきたい。

（宮島保健福祉部長）

これは何か決まっているということではない。自治会、コミュニティ単位で活動を維持していくためにどうするかということで、それぞれが話し合って決めていて、例えばゴミ出し1回50円と決めているところもあれば月いくらと決めているところもあったり、さまざまである。活動で物資が必要であれば物資を調達するのに会員の方から幾ばくかお支払いいただいて、活動に必要な道具やお揃いのユニフォームを買ったり入会金をとっているところが多い。ないところもある。

（大野委員長）

支えあい活動というと高齢者の方の生活を支えるという意味合いが強いのだが子育ての支援もやっているところもあるのか。

（宮島保健福祉部長）

おっしゃるとおり。もともと高齢者の生活を支える活動が多いが、子育て世代の支えであったり障害者を支える活動もある。高齢者の方も子どもに関わる仕事をしたいというニーズが実はかなり多くて段々そちらのほうにも目が向いている状況である。

（伊藤委員）

支えあいといえば高齢者と若者が離れている。特別養護老人ホームに入りたくても入れない人がたくさんいるという話になる。お年寄りが集まっておしゃべりをしたりする若葉の会が半年前から立ち上がった。おしゃべりしたり運動したり歌を歌ったりして活動している。支えあいがこういった会議の原点になっているというのは知らなかった。

ウ 説明事項 2-1 人口動向について（飯田企画部長）

【質疑応答・意見】

（金井委員）

このシュミレーションをお願いしたのは私。年齢構成が知りたかった。案1案2、あまり年齢構成が変わらないのは意外だった。私は年齢構成のバランスを考えるべきだという主張をしているので。シュミレーションの案2の数字が少ないのでは。どこか欠落しているのか。

（飯田企画部長）

基本は住民基本台帳から引っ張ってきている。住民基本台帳は町丁目というところ

から引っ張ってきているのでそこと町会とが上手くリンクしてないというところがあって誤差が生じるというところが一つあるのと、案2と案1のところで地域のエリアをどう見てるかというのが一番のポイントだと思うが、案1は6町会、案2は案1に加えて若柴町会、東十余二町会。いずれにしても全体の人数が変わっても年齢構成比率はあまり変わらないかもしれない。いずれにしてもシュミレーションなので、死亡者の推定が100歳ということや出生、転出を考慮していないというところもある。資料は再度チェックをしてお出しする。

(大野委員長)

若柴・東十余二・柏の葉一・二・三丁目の年齢構成は柏市全体と大して変わらないのでは。柏の葉マンション群は30代後半～40代と15歳以下の子どもの数が非常に多い。このまま20年経つと案1は20年先には60代がものすごく多くなってくる。20年後の高齢化がマンション群にとって非常に大きな問題になる。これが実は各地のニュータウンで起きている現象で今から30年とか40年前に30代のかたがどっと入られた地域がそのまま、その年齢層がものすごいボリュームがあって逆にその下の若い層がほとんどいないというかたちでどうしていくかという問題があって、地域への支えあいを考えたときに10年後20年後の長いスパンで考えていく必要があると思う。

(石毛委員)

人口について案2は2万人を超えるというデータでよいか。

(地域支援課染谷主幹)

そのとおりである。

(山境委員)

確認だが田中地域の人口について以前8月に出してもらったデータと乖離があるようだが、厳しめに見ているのか。

(飯田企画部長)

そのとおりである。マンションのシュミレーションを厳しめに見ている。例えば5棟のマンションが建つ可能性があるとしたときに5棟がいったんに建つのか何年か空けて建つのかということのシュミレーションもあって今回は5年おきに建つというシュミレーションをした結果で行っている。

(三牧副委員長)

シュミレーションはどの範囲を対象にしているかによって線引きが大きく変わってくると思うので、そのあたりは明確に示してほしいと思う。

(飯田企画部長)

今回の推計としているのは柏の葉キャンパス駅の南側5箇所を保留地として(現況さら地となっている所に差し込んでいるというかたち)を対象としている。

エ 協議事項 1 エリア分割の境界について（染谷主幹）

【質疑応答・意見】

（大野委員長）

行政の枠組みとしてのコミュニティエリアの設置という問題と住民組織としてのふるさと協議会の設置という問題がある。提案について柏市は行政としてコミュニティエリアの枠組みは案2が望ましいという考えだが、住民の意向を踏まえるならば今の時点ですぐに案2というのは難しいので5年後をメドにして案2への移行ということを考えている、ふるさと協議会についても同様、ただ今の時点では住民の意向を尊重していただけるということで決定事項ではないということによいか。

（地域支援課沖本課長）

市として、ひとつの案を積極的に推すということではない。そのうえで2案がより自然であろうと捉えている。なぜかという、コミュニティエリアとふるさと協議会は一体のものとして市は進めてきている。これは同じ地域に住む方々が自分の地域をより住みやすくするために取り組む共助の活動を支えるという母体である。「同じ地域」という視点で見ると案1より案2のほうが望ましいという書き方をした。

（大野委員長）

事務局で2案のほうが望ましいという利点についてもう少し詳しく教えてほしい。

（地域支援課沖本課長）

抽象的には同じ地域に住んでいるかたが地域をよりよくするためにというところだが、もう少し具体的にご説明すると、例えば町会で行われる共助の活動がより身近なゴミ出だとか隣近所の声のかけ合いだとすると、もう少し広げて福祉は先ほど支えあいの活動の紹介があったがスケールメリットを活かした助けあいの活動だとか防災等は避難所もあるのでより広域な中で助けあい、あとは共助の活動が必要となる。そういったものを考えたときには、個別な名前を出して申し訳ないが若柴町会と柏の葉キャンパス一番街町会が別々の地域で活動するというのは将来的には合わないところがでてくるのではないかと考えている。施策の面から考えても案2の方が自然かなと考えている。

（大野委員長）

これから各町会ごとに順番に意見を聞きたいと思うが、その前に何か質問あれば。

（石毛委員）

コミュニティエリアとふるさと協議会は同一という説明があったが、実際にふるさと協議会に入っていないところもあって必ずしもリンクしない場合もあると思うが、今回の分割においてもコミュニティエリアの範囲とふるさと協議会の範囲が分かれているというのもありうるのか。

（地域支援課沖本課長）

エリアについてはふるさと協議会のエリアとコミュニティエリアは一体と捉えている。ただ柏の葉一，二，三丁目町会は田中のエリアに入っているがふるさと協議会に入っていないというかたちである。町会でイメージするとわかりやすいと思うのだが町会のエリアには入っているけれども町会員ではない方がいるのと同じようなかたちである。

（大野委員長）

各町会からの意見を紹介してもらえればと思う。

（増田明委員）

理想としては2案。将来的にはそういうイメージを持っている。今すぐは問題があって将来的にということである。いずれということで人口的にも面積的にも理想だなというふうには思う。現状は案1でお願いしたい。町会員も同意見。

（伊藤委員）

少子高齢化は全国的な問題である。小さな区域のほうが活動しやすいということはあると思うが、私の意見とすると今は田中に入っているので、田中からは抜けられない。社会全体の地域のあり方を考えるべき。

（増田勝美委員）

二択ではなく三択に迫られている。というのは高田が近い。活動自体はパトロールなどは高田の人たちと一緒にやっているのでも、ここで言いにくいところもあるが高田と一緒にやりたいという意見もある。現状は取りまとめるのにもう少し時間がかかるので、現状のままで行かざるをえない。最終的にはどちらかにつかなければならないということを考えなければならない。町会が大きすぎて困っている。現状としては今は案1でお願いしたいと思っている。

（金井委員）

今すぐにでも案2で。

（米山委員）

案2で進めていきたいと思っている。役員レベルで案2を推していくということになった。

（石毛委員）

案2で。役員会レベルで。希望としては案2。案1でも仕方ないと思う。

（篠原委員）

時間的な面からも案2がよいのでは。ただし、（案2に）実際に入るところ（4町会）の意見も大事にしたい。

（山境委員）

町会全体としてコミュニティエリアを分けることに関して了承いただいている。市の意見（移行案）に賛成。5年後というのはもう少し緩みをもたせて柔軟に考えら

れるようにすべき。5年後に案2ありきではなくて他町会の意見も大事にしながらやっていくべき。

(武田委員)

案1のほうが運営はしやすいのではという意見はあるが、案1がいいか案2がいいか最終的にはまとまっていない。人口シュミレーション的に案2のコミュニティエリアが運営可能なのか。検証をしてほしい。案1だと東西に分かれてしまう印象を受けるが、案1になったとしても東西連携してまちづくりをすすめていくような場だったり機会がないと案2への移行は難しいという意見があった。

(大野委員長)

各町会から意見が出たが、他にもご意見があればいただければと思う。

(根本委員)

非常に難しいことを議論していただいている。地域の意見を最大限尊重しなくてはいけないと思うが、行政が示している提案が現実的であるのではないのかと思う。緩やかに案1から案2へ移行する、その先ほどの課題というものがあってもまさに課題である。しかし柏の葉一、二、三丁目と柏の葉キャンパス一、二番街、ゲートタワーは案2を推している。行政としては基準が非常に難しくなってきたのではないのかと思う。ふるさと協議会連合会としては最大限のバックアップをしなければいけない。どのようにするかは非常に難しい問題がある。分割するという前提があるので案1から案2、東十余二町会は案3というのもあればというのがあったが連合会としてはできれば案1でやっていただきたいなという思いはある。案1から案2へ移行するにあたっていろいろバックアップしながらスムーズにサポートをしていかなければならないという思いはある。柏の葉グループの方々ほとんど案2を推しているところが多いのが迷っている。

(竹之内委員)

町会・自治会の実勢を第一に尊重しなければいけないという気持ちでいる。田中地域全8,000世帯いる中で若柴町会や東十余二町会が抜けると1,700世帯が抜けていなくなるのはさびしい。できることならなんとか一緒にやっていければという思いはあるが。確認をしたいのだが、事務局からの分割案によると柏の葉一、二、三丁目は来年度は田中地域から抜けるようなかたちになるのか、もう一点、柏の葉キャンパスまちづくり協議会と柏の葉1丁目・2丁目・3丁目連絡会と(仮)柏の葉地域ふるさと協議会の設立準備及び設立等を実施とあるがこれも来年4月あたりから発足になるのか。

(地域支援課沖本課長)

エリアの設定自体はこのまま進ませていただくとすれば来年4月からということにさせていただければと思う。ただ具体的に何をどう変えるかはこれから詰める

べきことかなと思っている。例えば町会長名簿について、コミュニティエリアごとに名簿を作っているが来年、柏の葉地域として新しい形になるのか具体的な話はこれから協議していく。

(秋山委員)

民協そのものは法律によって決められていて3年に1度人口動態世帯割をベースに人数を決めている。全体の定数は564名、実数は554名。田中エリアと田中・柏の葉エリアは28人いて、そのうち田中・柏の葉は16人が実働している。エリアを分けた経緯は委員からの声で範囲が広いという話があり分割した。

(三牧副委員長)

開発でマンションが建っていく計画も含めて、これからできる新しいマンションが地域コミュニティに属さないということは避けるべきだと思う。案1から案2にどうやって移行していくか、どういう活動をしていくのかが、せつかくこういったかたちで作っていったものを継続していくことが大事だと思う。改めて田中というエリアの歴史的経緯を理解して新しく住む方も一緒にやっていくことも大事かなと思う。また、分割したとしても一緒にできる活動はあると思うので、そういったことも含めながら議論していければと思う。

(篠原市民生活部長)

原点はふるさと運動の推進ということになる。ふるさと運動とは一言でいえば住みよい地域づくりを目指すということである。コミュニティエリアの設定については地域特性、地理的な要件、新旧住民の融合というものがある。それらを踏まえて民児協というものが先行して活動を進めているということもあり大事にすべきことだと考えている。支えあい活動など多世代交流がキーワードになっているということも大前提として考えてもらいたい。

(伊藤委員)

来年4月にこのままでいくと移行するということだが、来年は田中地域でお願いします。

(大野委員長)

各町会に聞いたものをまとめると、特に柏の葉の一、二、三丁目町会は案2が望ましいということである。柏の葉キャンパス一、二番街、ゲートタワーのなかでは、いろいろと意見はあるけれども、大枠でいうと案2が望ましいが当事者である4町会の中でなかなかすぐにとというのが難しいというのであれば、ひとつの方向性として市から提案されている案1から5年後を目処に案2へ移行するようなかたち、5年後というのは幅を持たせて今後協議をすすめていくというような形で結論を出させていただきたいがよいだろうか。提案1を認めるということではどうか。

(山境委員)

案2に移行するという5年後という数字は柔軟性をもってということによいか。

(地域支援課沖本課長)

そのとおりである。地域の理解や意向にそって行うのが大前提にあるので、そのところは決め打ちではないということをご理解をいただければと思う。

(大野委員長)

提案事項1はそういったかたちで結論とさせていただく。

エ 協議事項2 分割後の進め方と課題(染谷主幹)

【質疑応答・意見】

(金井委員)

ふるさと協議会とはどういう組織なのか。民間なのか公なのか団体の性格を教えてください。

(地域支援課染谷主幹)

任意団体である。多くは町会のメンバーの連合会で地域の課題や役所の施策の展開をおろしたりして活動してもらっている。

(金井委員)

近隣センターを作るのは。

(地域支援課染谷主幹)

市役所が作る。近隣センターが地域拠点になるので、そこでふるさと協議会の事務所をおいてもらって地域活動をしている。

(金井委員)

近隣センターの運営はふるさと協議会がやるのか。

(地域支援課染谷主幹)

市の職員がやっている。

(金井委員)

近隣センターを作るときに規模や予算はコミュニティの規模によって案1と案2でかわるのではないか。

(地域支援課染谷主幹)

市役所には近隣センターは2タイプがある。A館とB館と呼んでいるが、A館は出張所機能をくっつけて貸館と図書分館があるもの、大きいと1,500平米くらい、B館は貸館機能があるものである。規模は1,000平米くらい。予算はふるさと協議会の活動資金は120万円補助金を出している。近隣センターについても備品などが違ったりということはあるが、基本的には同じような形でやっており利用者の不便にはならないと思っている。

(大野委員長)

具体的に近隣センターはどういった活用のされ方をしているのか。

(地域支援課染谷主幹)

地域活動の中でサロン、図書館の分館活用、いきいきセンター（社協）など、地域のかたが自由に使えて交流できる場となっている。

(根本委員)

ふるさと協議会は各町会、民生委員児童委員、PTAなどの構成員で構成されている。その中で専門部というものがある。文化部、環境部、地区社協など、各ふるさと協議会によって構成は違う。近隣センターを活動拠点として、ふるさと協議会は活動を行なっている。ふるさと協議会は行政ではないのだが、行政の延長線上にある組織だと考えてもらってよいだろう。柏市市民グループの代表者同士でふるさと運動を発展させる、行政をサポートする延長線上にある組織である。

(山境委員)

スケジュール案だと、2020年4月ふるさと協議会設立とあるが、ふるさと協議会ができてから何年後かに近隣センターができるのか。

(地域支援課染谷主幹)

おっしゃるとおり。一番新しいところだと手賀地域ふるさと協議会が平成19年4月に協議会が立ち上がって近隣センターが出来たのは平成29年と約10年たっているが、その間は沼南支所に拠点を置いて活動していた。リンクしているというのは事実である。

(大野委員長)

ここでは特に決定するというのではなく、このようなスケジュールで進めていくということをご理解いただきたいが異議はないだろうか。最後に課題を確認して、一つ目はふるさと協議会の設立に向けて、柏の葉一、二、三丁目の連絡会の方とまちづくり協議会とで、これからどういうかたちで地域づくりを進めていくかということ。特に先ほどもあったが近隣センターがハードだとするとソフトの部分は地域の住民の方の話し合いの中で進めていただくことになる。ひとつの目安として平成32年度の設立に向けて話し合いを進めていってほしいと思う。二つ目の課題としてコミュニティエリアの移行に関しては今の6町会に加えて4町会、これまでの歴史的経緯など、これまで3回の会議で出てきて、そんなに簡単なことではないということも理解しているが同時にこの地域はまだまだ開発が進んで新しい方もまだまだ入ってくるので、町会内でも前向きに検討していただきたい。せっかく今回集まっていたいただいた10町会の中での連絡会を定期的を開いていくというかたちで進めていただきたい。三つ目は市に対して、近隣センターの設置に向けて進めていただきたい。地域の方の意向を反映してほしい。それから学区の問題についても、学校を支えているのが地域の中にあるということを見ると、学区の整理ということが全地域的にあるということではあったが、その中でいろいろと地域の声を聞き

ていただければと思う。長い期間にわたってどうもありがとうございました。前向きに進んでいければと思う。

6 閉会